

## クレマ

サンドナートからバスで1時間のところにこんな観光地があるとは気がつきませんでした。クレマは、城壁で囲まれた旧市街と昨今拡張された新市街がありますが、この旧市街は観光地の要素をすべてかね揃えています。もちろん、ツアー・インフォメーションもあり、英語のガイドと観光マップがちゃんと用意されています。こんなに近くに住んでいたのに気がつかなかったのは、この街に申し訳ないような気がしました。

クレマは、ロンバルド語で“小さな丘“との意味なので、6世紀のロンバルド人の侵略からその歴史が始まったとの言い伝えがありますが、実際には、この街は丘の上にあるわけでもないので、定かではないようです。歴史書に最初に出てくるのは、11世紀で、当時の領主からクレモナのビショップにクレマを譲ったとあります。当時から農業と羊毛の生産がこの街の産業でした。12世紀には、神聖ローマ帝国のバルバロッサによる長期間の包囲の上に占領され、再び、神聖ローマ帝国の同盟国であったクレモナの管理下に戻りました。しかし、この期間、12世紀の終わりに街の周りの城壁が修復され、13世紀にはドゥオモが建立されて街は発展しています。14世紀にはミラノのヴィスコンティ家の支配下に入り、ヴェネツィア共和国との抗争により、15世紀にはヴェネツィア共和国の支配下となります。ヴェネツィア共和国の支配の時代には、クレマは特権を与えられて更に繁栄して、ほぼ現在の旧市街の状態となっています。城壁もこの時代に修復されて今に残されています。

クレマの旧市街は、現在でも80%くらいは城壁に囲まれています。もちろん、市街に入る道路の部分の城壁は取り壊されていて、旧市街からは放射線状に幹線道路が延びています。旧市街のメインストリートには、東と西に街の入口としての大きな門があります。東にあるセリオ門近くでバスを降りて、旧市街には入らず、クレマの北、約1キロにあるサンタ・マリア・デッレ・クローチェ教会を目指しました。歩くこと10分強で大きな素晴らしい教会が見えます。この教会は、ヴェネツィア共和国の支配時代である1490年に建てられたルネッサンス建築の教会です。やはり、ロマネスクやゴシック建築と違い芸術性の高い建築で、外観を見ているだけで感動します。この時点で、クレマの街を見直してしまいました。内部も素晴らしいフレスコ画と神聖な雰囲気にも包まれていました。貰った観光ガイドには、“サンタ・マリア・デッレ・クローチェ教会を見ずして、クレマの街を知っているとは言うな”と書かれていました。この教会を見てその意味は良くわかりました。





サンタ・マリア・デッレ・クローチェ教会を堪能して、いよいよセリオ門を抜けてクレマの街に入りました。メイン通りを歩いて目指すはドゥオモ広場です。クレマのメイン通りには、サルディもあって、多くの人買い物に来ていました。ミラノに近いこの街にもサルディの波が押し寄せています。メインどおりには、クレマのお菓子屋さん、カフェと共にミラノからのブランドショップも並んでいました。



買い物に興味がないので、ほんの5分くらいでドゥオモ広場に到着です。ドゥオモは13世紀に建てられたのですが、ここには、もともとクレマ征服の証として1160年にバルバロッサが建てた *Ecclesia Sancte Marie de Crema* (ドイツ語) という神聖な建物があったそうで、その上に1284年から1341年にかけてドゥオモが建てられたとのこと。ロンバルディア・ゴシックの豪華な教会です。中に入ると、知らないおじさんが近づいてきて、正面に向かって左の礼拝堂にある“十字架のキリスト像”の奇跡を説明してくれました。昔からこのキリスト像は奇跡を何度も起こしているそうで、ある兵隊が足を負傷してこのキリスト像に祈りを捧げたところ足は元に戻ったとのこと。一番最近では、どこの病院でも直らなかった拒食症の少女を母親が連れてきて、最後の手段としてキリスト像に祈りを捧げたところ、その日から食事を通常に取り始めて、今でも元気になっているとのこと。なぜ、このおじさんが、そのことを私に伝えたかったのは謎ですが、流暢な英語で真剣に話をしてくれたので、お金目当てではないことは確かです。そんな話を聞いて、そのキリスト像をじっくりと見ていたところ、その奇跡を信じてしまっている自分に気がつきました。





ドゥオモ広場には、それ以外にも観光スポットがあります。ドゥオモと同時期に建てられたプレトリオ宮殿と塔、ヴェネツィア共和国時代に建てられたコミュニナーレ宮殿があります。コミュニナーレ宮殿の正面とプレトリオ塔には、ヴェネツィア共和国の紋章である“翼の付いたライオン”が今でも残っています。カフェやお店も並んでいて、非常に気持ちの良い広場です。この広場はメインストリートのちょうど中間に位置していて、位置的にも実質的にも昔からクレマの中心なのです。



城壁内の旧市街は、それほど大きくありません。ドゥオモ広場以外にも、教会や宮殿が点在していて、歩けば棒にあたるように、特徴的な建物が目につきます。クレマの博物館の前にあるボンデンティ(今はヴェルニ)宮殿は特に素晴らしい建物でした。この宮殿は現在アパートとして使用されているよう

で、奥まではいけません。見学している間も人が出入りしていました。住民は、いつもの事のように見学者を気にしてないようです。博物館は2月いっぱい閉館でしたので、見ることは出来ませんでした。ガイドによると最後の晩餐のフレスコ画があるそうです。



最後に、もう一つの門（オブリアーノ門）を抜けて、クレマの旧市街とはお別れです。こちら側のバス停（メルカート通り）に行く前に、公園に立ち寄り城壁を外側から見て来ました。15世紀の城壁とは思えないほど保存状態が良く立派なものでした。



クレマへは、サンドナートから、いつものアッダ・トランスポートィの Linea 34 で約1時間です。料金はF地域で、片道3.4ユーロでした。このクレマで、サンドナートからのアッダ・トランスポートィを使った小旅行は終わりです。このバス路線には堪能できましたので、また、同じようなバス路線を見つけて小旅行を計画する予定です。クレマには鉄道駅もありますが、ロゴレド駅からの直通はなく、ランブラーテ駅から列車を乗る事になりますので、時間もかかり不便です。クレマは大きな街でもあり、土曜日ならバスの本数も多いのでバス利用のほうはずっと楽です。但し、日曜日は2時間に1本となりますので注意してください。

とにかく、近いので暖かくなったら、もう一度行って、今度は博物館も見てくるつもりです。